

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的
 ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
 ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
 ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
 ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
 ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース/国会/11.3憲法集会/緊急アンケート
- 3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4面 緊急避妊薬/大阪都構想拒否/保育集会/ジェンダー講座/ホットライン
- 6面 『長崎の証言』/母の歴史
- 7面 新婦人/主張/隠れ教育費



広島市 若山翠子 (88)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

認知症を前向きに 生きるために!



ESD 持続可能な開発目標



支えあうことが
大切なのね

今田医師を講師に、宮城県本部が開いた認知症学習会



今田隆一 医師

坂総合クリニック、宮城県認知症疾患医療センター長、新医協会長

認知症になっても自分らしく生きるには——。日頃の備えが大切」と発信している、坂総合クリニック、宮城県認知症疾患医療センター長、新日本医師協会会長の今田隆一先生に聞きました。

認知症の危険因子 4割が予防可能

	2017年	2020年
若年期	最高15歳までの教育	最高15歳までの教育
中年期	高血圧症・肥満・難聴	高血圧症・肥満・難聴 頭部外傷 アルコールの過剰摂取
老年期	うつ病・糖尿病・肉体的な不活発・喫煙 社会的接触が少ない	うつ病・糖尿病・肉体的な不活発・喫煙 社会的接触が少ない 大気汚染

イギリスの医学雑誌ランセットのレポートより



絵手紙を楽しんで (写真提供: 認知症の人と家族の会宮城県支部)

生活の悩み一緒に考える

私は外来で、認知症の方を診ています。その方々は記憶力や認知機能の低下などのため、日々の生活に多くの悩みや不安を抱えています。診察室での相談には、できるだけ答えるように努力してきました。しかし、生活の障害からくる悩みに対して、どう答えたらよいか分からないことが多々あります。「認知」というのは、その人が生活してきた文化的な環境や生活環境によって人それぞれです。その障害は記憶の機能低下が進み、特に新しいことがうまく覚えられなくなる記憶障害、それに加えて今まで

の自立した生活ができなくなるという生活障害の問題です。生活の障害からくる悩みには、正解がないか、見えにくいことが多いのです。ですから、それぞれの悩みを聞いて一緒に考える。私たちがやれることは病気の診断をして、薬を提供し、その後は家族、地域、仲間、介護保健施設、介護サービスなどの利用を勧めながら、併せてその方が大事と思っていた事柄を実践できるような環境をつくっていただくということ。私は、予防も大事ですが、むしろ日頃の備えこそが必要だと思えます。

認知症発症の要因

年齢とともにもの覚えが悪くなったり、人の名前が思い出せなくなるのは、脳の老化による「もの忘れ」で認知症とは違います。認知症とは、病気が原因で脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態のことを言います。イギリスの医学雑誌『ランセット』では認知症予防について2017年と今年(2020年)の2回、レポートを発表し、3年間で認知症の危険因子を9から12に増やしました。合計して4割に予防可能な危険因子があるとしています(表)。特に注目すべきは、両報告ともに大きな因子として「難聴」「若年期における教育年数」「老年期での社会的接触が少ない」をあげています。社会的つながりの大事さ、脳を使うことの大変さが示唆されている

緊急募集!

コロナ禍での仕事の「困った」の声を寄せてください

(アンケート2面)

大阪市住民投票勝利

<4面>

一方、認知症になる確率は世界中でも女性の方が多いと言われています。これは女性性と男性性のそもそもの遺伝子の違いだという考え方も、もう一つは社会的なつながり、経済的な自立、文化的な産物、あるいは教育の機会、そういう男性優位につくられてきた歴史の産物だという考え方もあります。こうして認知症の予防と脳の健康づくりは、幼・小児期から始まり、青年期・中年期・老年期を通じて一生継続し、毎日の生活の中にこそあると思います。またそうした危険因子に目を向けて対策を立てることは「日頃の備え」にもなる(1)です。

<2面>

